

札幌秀友会

# 紹介状なし初診にAI問診を導入

## 回答に合わせて問診内容を自動生成

手稲区の札幌秀友会病院(藤原雄介理事長、安斉公雄院長・141床)は、紹介なしの外来初診患者向けにAI問診を導入。看護師や医師事務作業補助者の労力軽減のほか、問診の正確性向上で、患者の安心にもつながっている。

同病院は脳神経外科をメインとし、紹介患者だけでなく、近隣からの多くの救急患者にも対応している。一方、高齢化、生活習慣病を中心としたさまざまな合併症によ

り、頭痛やめまいなどを訴える紹介状無しの初診患者も増加傾向にあり、1日当たり10人を超えることが多くある。こうした初診患者の場合、看護師が付きっきり

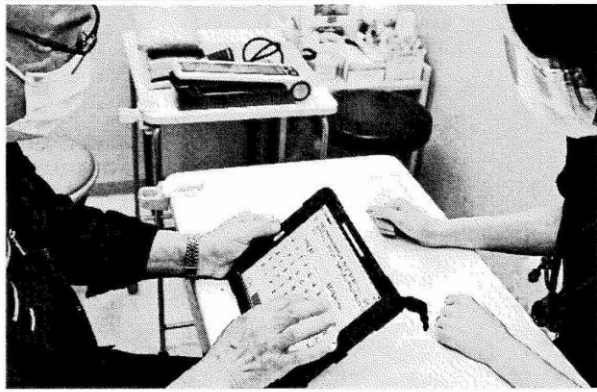
で問診を実施。問診から得られる情報量が多いため、医師事務作業補助者がカルテへの転記に時間がかかると、スタッフの負担が課題となっていた。

また問診や検査に時間がかかってしまうほか、再診患者の合間をぬって診察する形になるため、およそ1時間、長いときは2〜3時間ほどの待ち時間が生じていた。

導入したAI問診システムは、患者ごとにAIが最適な質問を自動生成・聴取し、問診結果を電子カルテに1クリックで転記することで、業務効率化を実現するWEB問診システム。AIが5万の医学論文を基礎に、医師監修のもと常に新しいエビデンス情報を随時追加している。この膨大なデータを基に、患者の回答に合わせて問診内容を自動で生成する。

患者はタブレット型端末に表示された質問に対し、選択肢を選ぶだけの簡単な操作で回答できる。AI問診中は基本的に看護師がついているものの、的確な質問の自動生成により、問診にかかる時間が短縮。ワンクリックで電子カルテへの転記ができることで、医師事務作業補助者の負担が大幅に軽減した。

簡単操作で問診時間が短縮



きでは1日当たり30〜40人ほどの来院がある。若くて比較的軽いけがの救急患者が多いことから、1人でAI問診に対応でき、その間、看護師は処置準備などを進めることができ、作業の効率化につながっている。

現在、タブレット型端末2台で対応しているが、今後は病院ホームページにQRコードを掲載し、そこにスマートフォンでもAI問診ができるようにする予定で、さらに将来的にはオンライン診療等でも活用していきたい考えだ。

同病院は10月に救急外来を設けており、多いと評価も高い。